

# 令和2年度 学校評価シート

学校名：和歌山県立耐久高等学校（定時制） 学校長名：大西 弘之 印

めざす学校像 育てたい生徒像	<ul style="list-style-type: none"> <li>一人一人の生徒の課題に対応した指導及び支援を行い、社会的自立へと導く学校</li> <li>規律ある生活態度と自己責任能力を高め、地域社会に参画・貢献しようという意欲と態度を育てる。</li> </ul>
本年度の重点目標 (学校の課題に即し、精選した上で、具体的かつ明確に記入する)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 生徒の学習実態に即した教育課程の編成</li> <li>2 基本的生活習慣の確立及び自己有用感の向上</li> <li>3 在校生の就業率及び卒業時の就職率向上に繋がるキャリア教育の充実</li> <li>4 シティズンシップ教育の充実</li> </ol>

中期的な目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>勤労の尊さや創造することの喜びを体得するための体験活動の充実</li> <li>生涯を通じて健康・安全で活力ある生活を送るための健康教育の充実</li> </ul>
学校評価の結果と改善方法の公表の方法	学校便りやマンスリータイムズを定期的に発行し、保護者や地域、関係諸機関に対して配付する、また、ホームページで学校の教育活動について公表する。

達成度	A	十分に達成した。(80%以上)
	B	概ね達成した。(60%以上)
	C	あまり十分でない。(40%以上)
	D	不十分である。(40%未満)

(注) 1 重点目標は3～4つ程度設定し、それらに対応した評価項目を設定する。 2 番号欄には、重点目標の番号を記入する。 3 評価項目に対応した具体的取組と評価指標を設定する。  
 4 年度評価は、年度末(3月)に実施した結果を記載する。 5 学校関係者評価は、自己評価の結果を踏まえて評価を行う。

自 己 評 価					学 校 関 係 者 評 価		
重 点 目 標					年 度 評 価 (3月25日 現在)		
番 号	現 状 と 課 題	評 価 項 目	具 体 的 取 組	評 価 指 標	評 価 項 目 の 達 成 状 況	達 成 度	次 年 度 へ の 課 題 と 改 善 方 策
1	<p>将来を見据え、高校を卒業したいという願望はあるが、義務教育段階における不登校等により、学習意欲や基礎学力が定着していない生徒が少なくない。</p> <p>生徒の授業に対する取組の姿勢を向上させるため、生徒の学習におけるつまづきについて職員間で授業方法の改善について検討する必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業の大切さを認識させ、授業の規律を確立しているか。</li> <li>生徒の力をつけるための工夫がなされているか。</li> <li>生徒の実態に応じた指導と評価がなされているか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学び直しによる基礎学力と集中力の育成(反復学習を中心に)</li> <li>わかる授業及び生徒の主体的な参加を促す授業の工夫</li> <li>「私語をしない、不必要なものを学校に持って来ない、机の上に置かない」等の学習姿勢の徹底</li> <li>興味、関心、意欲、提出物や授業中の発言等を含めた総合的な評価</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎学習プリントの提出の徹底(提出率100%)</li> <li>欠席連絡の徹底(理由のない欠席、遅刻早退等をなくす。)</li> <li>授業中の問題行動の低減(問題行動数を0に)</li> <li>全単位修得による卒業</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎日実施している10分間の基礎学習により、時間内における学習内容の達成度が向上した。</li> <li>中学校時に不登校であった生徒も含め、卒業予定者全員を卒業させることができた。また、在校生においても全員進級させることができた。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>中学校時に不登校であった生徒が本校入学後出席状況がよくなった。しかし安定して出席できない生徒も多い。</li> <li>生徒に授業の大切さを認識させ、授業の規律を確立するとともに、学習に対する意欲を持たせるための授業改善が必要である。</li> </ul>
2	<p>生活習慣が確立していないため、自己中心的で規範意識等の低い生徒が在籍している。家庭環境や本人の意欲等理由は様々であるが、関係機関の協力等も得ながら個別に課題を解決していく必要がある。また、特別活動を通して、コミュニケーション能力を育てる必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒に、時と場に応じた言動を求めているか。</li> <li>他者との関わり方を十分に学ばせているか。</li> <li>自己の在り方や生き方を考えさせているか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>時間厳守</li> <li>総学やLHR等を通しての基本的ルールやマナーの遵守の徹底(式典及び学校行事等におけるスマートフォン等の預かり、食べ歩きや言葉遣いの指導)</li> <li>特別活動等を通じての社会性の育成</li> <li>外部講師による講演や学習会等による意欲の高揚</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>登下校時の挨拶指導</li> <li>職員室等での言動指導</li> <li>個人面談の実施</li> <li>仲間づくり等の学習会の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員室への入室時における挨拶を徹底することができた。</li> <li>職員室内での適切な言葉使いなども改善が見られた。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>仕事先の勤務態度が原因で友人関係が悪くなり、そのことにより校内での関係も悪くなる事例があった。このようなことを未然に防ぐため、よりよい人間関係を作るための取り組みが必要である。</li> </ul>
3	<p>進路に対して見通しをもてないままアルバイト等で満足してしまう傾向がある。将来を見据え学校生活を送れるよう進路意識を高める取組が必要である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>正社員等として企業等に就職する意識や意欲を育てているか。</li> <li>生徒の就業先を確保するための継続的な努力をしているか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>就業形態の種類や違いを理解させるための学習会の実施</li> <li>勤労観や職業観を育むための講話等の実施</li> <li>ジョブサポートティーチャーやハローワークの活用</li> <li>卒業生の就職先へのアフターケアの充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>在校生の就業率向上</li> <li>卒業時の就職率向上</li> <li>離職率の低減</li> <li>保護者面談の実施</li> <li>継続した企業訪問の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>担任による積極的な進路指導により、卒業生全員が希望する進路を実現することができた。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒が希望する進路先の情報をより詳しく提供するとともに、進路先を見学する機会を積極的に設けることで就職や進学後のミスマッチを防ぐ。</li> </ul>
4	<p>他者の心情や場の状況が理解できず、自分の感情の赴くまま言動をとってしまう生徒が少なくない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会のモラルや他者との関わり方を考えさせる取組を実施しているか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ホームルーム等での人権意識を高めるための講話等の実施</li> <li>平和学習の推進</li> <li>ネットモラル等に関する学習会の開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>アンケートや感想文等での振り返りによる意識の高揚</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>人権教育LHRでスマートフォンの安全な使い方を考える機会を持った。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>コロナウイルス感染症の影響で1学期に人権教育LHRが持つことができなかった。来年度はできるだけ早く実施すべきである。</li> </ul>

学校関係者評価	令和3年3月1日 実施
学校関係者からの意見・要望・評価等	
<ul style="list-style-type: none"> <li>担任を中心として、家庭との連携を密にしており、保護者から積極的に前向きな協力を得ながら指導が進められている。その結果不登校傾向にあった生徒が登校できるようになるとともに、家庭の状況が不安定である生徒も徐々に安定して登校できるようになっている。</li> <li>卒業生の保護者からは、「先生方に、入学から卒業まで一生懸命にかかわっていただき、本当にありがとうございました」等の感謝の言葉を頂戴し、本校での高校生活が充実していることの評価を得た。</li> </ul>	